

令和8年度 ポリシーブック



JAYOUTH

地域に開かれた組織・活動をめざして

大分県農協青年組織協議会

目 次

I. J A組織強化に関する課題

テーマ① 食農教育と広報活動 **最重点事項** 1

テーマ② J A青年組織強化 2

II. 農業経営に関する課題

テーマ① 労働力と人材の確保 3

III. 農業政策に関する課題

テーマ① 各種補助金の情報 5

IV. 自然環境の課題

テーマ① 高温障害による被害 6

I. JA組織強化に関する課題

<テーマ①> 食農教育と広報活動 最重点事項

【現状と課題】（山香・由布・玖珠九重）

- ① 県産農畜産物の広報活動が十分でないため、ブランド力が弱い。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 生産技術の向上による高品質・高収量の確保に取り組む。
- ② JAが設定した学校への食農教育の場で、生産者として講師を担う。
また、子ども食堂や病院を対象に、農畜産物の寄贈企画を検討する。
- ③ イベント活動等を中心に県産農畜産物の試食宣伝や報道機関へのプレスリリース、SNSを活用した情報発信を行う。

【解決策(共助)】 JAと一体となった取り組み

- ① 盟友が行う食農教育活動について、事前の情報発信や資材の提供等のサポートを行う。
- ② 青年部が出展可能なイベント（JA主催、行政との共催など）を紹介する。また出展の際、資材の貸し出し等のサポートを行う。
- ③ 広報誌やテレビ番組などを通じて青年部が行う食農教育活動等のPRとともに、県産農畜産物を積極的に発信し、ブランド力の強化を図る。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 県産農畜産物を消費者に周知するためのスローガンやメッセージなど、ブランド力の強化を図るための手立てを講じるよう要望する
- ② 「地産地消」と「消費拡大」の観点から、自衛隊の食事や学校給食に県産農畜産物を利用するよう要望する。また、大分県出身著名人を中心に、県産農畜産物の寄贈企画を検討し実現するよう要望する。
- ③ 行政が関与するイベント等の賞品・参加賞として県産農畜産物を利用しJAと連携することで、ブランド推進を図るよう要望する。

＜テーマ②＞ J A 青年組織強化

【現状と課題】（山香・由布・玖珠九重）

- ① J A 内に 4 単組しか存在せず、盟友数も他県と比べ少ない。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 青年部の存在を知ってもらうために、自らの活動の活性化を図り、自主的に勧誘活動を行う等、盟友数の拡大に努める。
- ② 青年部活動の本来の意義やメリットを盟友間で共有し、後進にも伝える。
- ③ 青年部活動やポリシーブックについてまとめたチラシを作成する。

【解決策(共助)】 J A と一体となった取り組み

- ① J A における青年部の意義・位置づけを明らかにし、J A にとって必要な青年部の今後の支援内容・ビジョンを明確にする。青年部の今後について、協議の場を設ける。
- ② 青年部未設置地域の加入希望農家が加入できるよう、J A おおいた全体として青年部を設置する。
- ③ 生産部会などの若手生産者に対して、青年部紹介する場を設けるなど、生産部会と青年部の橋渡し役を担う。
- ④ 青年部加入のメリット（資材が何%安くなる等）を検討する。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 新規就農者や担い手就農者に対して、J A 青年部や活動について紹介するよう要望する。
- ② 4 H クラブを卒業した時点で J A 青年部に加入する仕組みを J A ・行政が連携し、構築するよう要望する。

Ⅱ．農業経営に関する課題

<テーマ①> 労働力と人材の確保

【現状と課題】（山香・由布・玖珠九重）

- ① 高齢化等による離農者の増加により、労働力や人材が不足しており、その確保が難しい。
- ② 農業者の減少および高齢化により耕作放棄地が増加している。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 独りで悩みを抱えることを解消するために、作目にかかわらず、農業経営全般に関する協議・共有する場を設ける。
- ② 農繁期における盟友同士の農作業を補助することにより作目の垣根を超えた労働力確保と作業効率化を図るとともに、既存のツールやサービス（1日農業バイト「デイワーク」等）の活用を検討する。
- ③ 雇用確保対策として、盟友各自で求人や賃金交渉を行う。
- ④ 耕作放棄地増加対策として、農業に興味を持つ人を対象に、耕作放棄地を活用した農作業体験会を実施する。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① 作目別部会だけでなく、農業全般に対する課題等を協議・共有する場を定期的に設ける。
- ② 農福連携を進めるとともに、地域農業者への農繁期における人材紹介など労働力確保のための新たな仕組みを検討・構築する。また、盟友同士の農作業を補助する取り組みの支援（募集情報の発信支援等）を行う。
- ③ 既存のツールやサービスの周知・利用説明会を実施する。
- ④ 耕作放棄地の解消に向け、J Aから盟友へ、農地の出し手（地権者）と受け手（利用希望者）の情報を紹介する。
- ⑤ 農業体験の広報および実施に伴う人員のサポートを行う。

- ⑥ 農業者の減少対策として、栽培講習会の開催情報を J O I N やホームページに掲載し、より広く周知する。また、平日だけでなく、土日にも開催するなど、中小規模の農業者が参加しやすくよう工夫する。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① 既存の協議体運営だけでなく、J A と連携したきめ細やかな指導を要望する。
- ② 農地中間管理機構を通じた農地集積について、積極的な事業活用に向け、事業や活用メリット等について、よりわかりやすく周知するよう要望する。
- ③ 労働力確保にかかるツール・サービス活用に対する人的・金銭的補助を要望する。
- ④ 労働力確保のための意見交換会を実施するよう要望する。
- ⑤ 農作業体験会の実施に伴う農機具等について支援を要望する。

Ⅲ. 農業政策に関する課題

＜テーマ①＞ 各種補助金の情報

【現状と課題】（由布）

- ① 行政等の各種補助金についての情報提供が少ない。また、自身の品目に該当するかどうか行政のホームページが分かりづらい。

【解決策(自助)】 個人・青年部としての取り組み

- ① 盟友自ら補助金に関する情報収集を行う。

【解決策(共助)】 J Aと一体となった取り組み

- ① 営農指導員の巡回等、対話の機会を増やす。
- ② 行政と連携し、各種補助金に関する最新の情報を提供する。また、申請手続きの支援を行う。
- ③ 青年部と県選出国會議員との意見交換の場を設け、農業政策や各種補助金に関する最新情報の取得を促す。

【解決策(公助)】 行政への提案・要望

- ① J Aと協力し、新規就農者や規模拡大を考える生産者等に対し、作目別の補助金にかかる研修会の実施を要望する。
- ② 各種補助金について、品目別にホームページに掲載するよう要望する。

Ⅳ. 自然環境の課題

<テーマ①> 高温障害による被害

【現状と課題】（玖珠九重）

- ① 近年の猛暑や干ばつによって農作物（園芸品目：トマト）への影響が発生している。

【解決策（自助）】個人・青年部としての取り組み

- ① 被害状況を踏まえ、ハウス等の施設強化の対策を講じ、高温障害に強い農業を実践する。
- ② 農業者自ら様々なリスクに備え、収入保険や農業共済等に参加する。
- ③ 高温障害による被害発生時にSNS等を活用して、近隣の農家（盟友）等に情報の提供・共有を図る。

【解決策（共助）】JAと一体となった取り組み

- ① 高温障害による被害発生時に情報が提供・共有できる体制を整備する。
- ② JAが被害状況を迅速に確認し、行政へ農家の要望に沿った支援要請を行う。
- ③ JA共済やJAバンク等における新しい商品や融資の開発を行う。

【解決策（公助）】行政への提案・要望

- ① 猛暑に強い農作物の品種改良を行うとともに、疏水等の整備強化を要望する。